

Hello

2001

7

No.221

# friends

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1階 045-896-2626

## 特集「かながわ」から「ベトナム」を考える

観光やビジネスでベトナムを訪れる人が年々増加しています。  
日本ではベトナム料理店が増え、ベトナム雑貨専門店も開店しました。

こうして「ベトナム」への関心が高まる一方で、日本に定住するベトナム難民の存在についてはあまり知られていないようです。今回の特集では、「かながわ」に住むひとりのベトナム人の目を通して、「かながわ」と「ベトナム」の関わりを考えます。



### 「かながわ」と「ベトナム」の関係

「かながわ」には、全国の都道府県で一番多く(2830人[2000年12月現在])ベトナム人が住んでいることをご存じでしょうか? その多くは、ベトナム戦争を起因とする難民です。1975年に終結したベトナム戦争の結果、多数の人々が難民として母国を離れアジア、欧米諸国へ逃れました。

日本も1978年以降ベトナムを始めとするインドシナ(ベトナム、ラオス、カンボジア)難民の受け入れを始めました。

1980年2月神奈川県大和市に、政府の委託を受け難民の受け入れを行う財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部が「大和定住促進センター」を開所しました(1988年に閉所)。そこでは、9年間で1,200人以上のベトナム難民が、日本語教育や社会生活指導を受け、日本社会に旅立ちました。

# ベトナム難民から見たベトナム

今年の7月で日本に定住して20年を迎えるベトナム人家族が相模原市に住んでいます。レー・ヒエンさん一家です。奥さんと3人の娘さん、ヒエンさんのご両親、奥さんの母親の8人家族です。ヒエンさんは現在、財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部の国際救援センターで通訳としてベトナムからの難民の様々な相談支援をしています。

ヒエンさんは、旧南ベトナム政府軍の下士官で、1975年のサイゴン陥落のときは、大統領警護隊に所属していました。その後、1982年に「ボートピープル」の難民として、日本にきました。

ベトナム戦争の結果、難民として日本で生活することとなったヒエンさんに、その半生を伺いました。

## ベトナムにいた頃

両親は、もともとはハノイで地主をしていました。

54年のジュネーブ協定の土地改革で当時は地主であった父親は「人民から搾取している」と刑務所に入れられました。そのため家族は南のニャンチャンに移り、その後父も刑務所を脱出し家族と合流しました。61年か62年頃サイゴンに移り当初、両親は公務員をしていましたが、60年代後半に父は公務員を辞め、建設会社を営み、母は製菓会社に勤め、兄は海兵隊に入りました。私は、高校を卒業したあと軍隊に入りました。



レー・ヒエンさん

75年に南ベトナムは負けました。私はそのとき大統領府警護隊にいました。私のいた南ベトナム政府は負けてしまったのですが、これで平和になるということで、共産主義の考えは好きではなかったですが、平和が何よりですから我慢しようと思いました。

100年間の植民地時代や20年間の戦争状態を思えば、共産主義の国になったとはいえ、新しい気持ちで新しい国の役に少しでも立ちたいと思いました。父親は戦争が終わってからすぐに政府に対し、経営している会社の全資産と家の提供を申し入れました。父親は、どうせ「人民から搾取した財産」として会社や家などは没収され刑務所に入れられてしまうのだから自分から申し出た方が刑務所に入れられなくてすむと考えました。その考えは正解でした。

戦争が終わってしばらくして、政府によって旧南ベトナム政府の公務員や兵士が学校などに集められました。その時、政府からは次のような話がありました。「20年前の共産主義とは違う。みなさん安心してください。」

しばらくして、今度は旧政府の高官と軍隊の下士官以上の人が同じように集められました。私もそのひとりでした。その時は、1週間分の食糧と服を持ってくるように言われました。集められた人は、何台ものトラックの荷台に乗せられ、バラバラになって2～3日走った後どこかわからない山の中に降ろされました。そこで銃を持った兵士に言われました。「おまえたちは、これからここで生活しろ。」しかし、そこには、ジャングルの中で何もありません。私たちは、少しの食糧と服以外何も無いわけです。兵士は銃を持ったまま私たちを監視していますが、私はその監視の目を盗んで脱走しました。

そして、中部のある町で家内と出会い結婚しました。

家内の両親は、私が南ベトナム軍にいたことも承知の上で結婚を許してくれました。

私は、住み慣れたサイゴン（ホーチミン）に住もうと思いました。脱走したわけですから捕まる可能性もありますが、サイゴンには私の友人も多くいて、いろいろな情報が入るので万が一の時は逃げられると思いました。しばらくサイゴンで暮らしていましたが、私は旧南ベトナム政府の軍人、しかも最後の所属は大統領警護隊でしたから、私の将来も子どもの将来もこのベトナムではないと思いました。なぜなら、良い職業のほとんどは、北ベトナム出身の人が占めるようになっており、自分の親の経歴が就職の際に重要なベトナム社会においては、生まれただけの子どもの将来も非常に暗いものでした。

## ボートピープル

13回目の脱出挑戦となる1982年6月、私は軍隊当時の友人といっしょに、6人乗りの漁舟、航海図のコピー（コピーを何度もしたもの）、海賊に備えて対戦車砲や銃、そして米や砂糖、水などの食糧を準備しました。

私は、妻と1歳半の赤ん坊や軍隊時代の友人とその家族の合計27人で脱出する予定でした。しかし、当時の南ベトナム人の多くが自由を求めて脱出したかった時だったからでしょうか、どこからか情報が漏れ、脱出計画当日には6人乗りの漁舟に私たちを含め65人が乗っていました。

### 1 ベトナム戦争

フランス軍と日本軍の二重支配構造をもたらし続けた第二次世界大戦が終了してからも1945年9月2日、ホーチミン氏はハノイでベトナム独立を宣言しベトナム民主共和国を樹立しました。しかし同年9月にフランス軍がイギリスの支援を受け再侵略をしましたが1954年ディエン・ビエン・フーでフランス軍が大敗し第一次ベトナム戦争が終焉しました。その年、休戦取決めのためのジュネーブ会議で北緯17°線を軍事境界線としてベトナムは、共産主義国家の北ベトナム（ベトナム民主共和国）とアメリカの支援を受けた南ベトナム（南ベトナム共和国）の二つの国家に分断されました。そして、1960年12月、ホーチミン氏が南ベトナムに結成した「南ベトナム民族解放戦線」（『ベトコン』）が、アメリカとその支援を受けている政権に対し宣言布告し、1975年4月30日の南ベトナムの首都サイゴンが陥落するまでの15年の長きにわたるベトナム戦争（第二次ベトナム戦争）となりました。そして、サイゴン陥落後の急速な社会主義化に適応できず自由を求めて多くの南ベトナムの人々が、難民として国を脱出しました。  
参考：ブリタニカ国際大百科事典より

### 2 難民

1951年の「難民の地位に関する条約」では、難民は、「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義されています。今日、難民とは、政治的な迫害のほか、武力紛争や人権侵害などを逃れるために国境を越えて他国に庇護を求めた人々を指すようになっています。

出典：国連難民高等弁務官事務所ホームページ

<http://www.unhcr.or.jp> より

運が良いのか悪いのか、脱出した時の海は台風で大荒れでした。当時は小舟で脱出する人が多くいましたから脱出に都合が良さそうな港は警察によって警備されていました。

もし、脱出するところを警察に見つかれば間違いなく射殺されてしまいます。特に当時の刑務所は、南ベトナムの人でい

っぱいで、国を脱出することは重大な犯罪でしたから脱出のときに発見された人の多くは、刑務所に入れられずに射殺されてしまいました。しかし、海が台風で大荒れのため警察が警備をしていませんでした。そして、海軍の下士官だった友人が用意してくれた漁舟のエンジンが丈夫できちんと動いたこと

と、海軍の将校だった友人の操舵が上手だったことで何とか警察が追いかけてくる海域を突破することができました。舟の中では生米やインスタントラーメンをそのまま食べたり、レモンを細かく切って砂糖をつけたものやコンデスミルクをスプーンでひとさじづつ食べたり、のどの渇きを癒すためにコーヒ豆を舂めたりしました。

マレーシアを目指して脱出しましたが、6人乗りの舟に65人も乗っているように進まなかったり、航海用のコンパスがなかったり、海が相変わらず荒れたりしてなかなかマレーシアにたどりつくことはできませんでした。途中何度も大きな船に遭いましたが、その船がベトナム行きの子連船だったり、こちらから救援信号を送っても難民舟だとわかると無視されたりでした。みんなが疲れ果てて20日以上たったある日、パナマ船籍のタンカーを見つけました。また無視されるだろうと思いつつ信号を送ったら、なんと助けてくれるというのです。全員フィリピン人の船員で日本へ砂糖を輸送する途中でした。

最初は、フィリピンの難民センターに受け入れてもらう予定でしたが、いっばいになってしまい、香港の難民センターに向いましたが、ここもいっばいになってしまいました。当時は小舟で脱出した人が多くいましたから、運良く着いた舟があれば、50人とか100人とか乗っていて、難民センターは



奥さんのファン・ティー・ヒエンさんと

すぐいっばいになってしまいます。

結局、船長の判断で日本に向かいました。日本では最初に神戸に入航しましたが、上陸を許可されませんでした。その後、近くの港でやっと上陸が許可されました。

65人全員が無事上陸できました。奇跡だと思いました。1982年の7月7日でした。

## 日本に着いて

日本では、まず長崎県の大村レセプションセンターに入り、健康診断や身分証明の手続きを済ませ、沖縄の民間キャンプに移りしばらくいました。そして、1986年、東京の品川にあるアジア福祉教育財団難民事業本部の国際救援センター<sup>3</sup>で日本語を3ヶ月間勉強し、社会生活適応指導コースが1ヶ月、合計4ヶ月の日本語や交通機関の利用方法などいろいろなことを学びました。その後、当時のセンターの所長さんが、私にセンターの通訳になるよう薦めてくれて、今もそこで通訳として働いています。

## 難民として日本で生活するむずかしさ

日本で生活するのに一番苦労したこと（今も苦労していること）は、「言葉（日本語）」の問題ですね。この「言葉」の問題は、私だけでなく、すべての難民にとって、仕事や病院や役所の手続きのことなど日本で生活する上で大事なことに全部に関係します。長女のように赤ん坊の時に日本に来れば、

日本の子どもと同じように日本語をきちんと学んでいけると思っています。しかし、例えば10歳くらいで日本に来てしまった場合、ベトナム語もまだしっかりできないうちに日本語を勉強しなくてはならない。不完全なベトナム語に全くわからない日本語、さらに算

数や社会の勉強、生活にも慣れないといけないうちの子どもにとっては負担が多すぎます。また、親も日本語はほとんどできないですから、子どもを助けるどころか自分の仕事のこと生活をしていくことでやっとです。

子どもについては、親がベトナム文化を伝えていくことの難しさもあります。日本で暮らしていてもベトナム人なので、ベトナムの考え方や文化を忘れないために子どもたちにベトナム語を教える必要ありませんが、そのような学校はありませんし、親は仕事や生活することで忙しいですから子どもに教える時間はありません。そうすると、その子どもが将来大人になった時、ベトナム人であってもベトナム文化を理解する基本のベトナム語ができないということになります。これは、別の言葉の問題でもあり、ベトナム文化を守ることができなくなるという問題でもあります。

次の大きな問題は、国籍問題です。ベトナムから逃げて来た難民は、自分たちはベトナム人だけどベトナム国籍を持っているということを証明することは、まず不可能です。なぜなら、ベトナム政府にとって難民は、国から「逃げた人たち」=「いない人たち」なのですから、その存在を証明すること



左より次女アンさん、三女タオさん、長女カンさん

### 3 財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部・国際救援センター

1979年に政府の委託を受けアジア福祉教育財団に難民事業本部を発足。日本に定住を希望するインドシナ難民やその家族の入国申請をとりまとめるなど、来日までのサポートを行います。入国後は国際救援センターで受け入れ、彼らが日本で安定した生活が送れるように日本語教育、社会生活適応指導、就職あっせんなどの支援を行っています。

TEL : 03-3799-1001 FAX : 03-3799-3079

出典 : 難民事業本部ホームページ <http://www.rhq.gr.jp> より

### 3 国際救援センターでの生活

まず、入所後に健康診断・オリエンテーションを受けます。その後、日本語教育（約4カ月、572時限）、社会生活適応指導（約0.5カ月、96時限）を修了後、本人の適性などを考慮した就職あっせんを受けます。就職先が決まると退所となります。

センターを退所した後も、生活する上で様々な問題にぶつかります。彼らの生活が安定するよう難民相談員、日本語教育相談員等がいろいろな相談に応じています。その他、難民定住者が行うコミュニティ活動などの支援を行っています。

\* 2001年5月現在、国際救援センターでベトナム人 61人、

カンボジア人 10人の合計71人が生活しています。

出典 : 難民事業本部ホームページ <http://www.rhq.gr.jp> より

はしないんです。ですから、難民が日本のベトナム大使館に行って自分の国籍がベトナムにあることを本国に照会して下さいなんてことを言っても絶対に照会してくれませんし、万が一してくれたとしても本国から「該当なし」で返ってくることは確実です。そうするとどうなるかというと、ベトナム人だけど「無国籍」になってしまうのです。「無国籍」のまま日本にいて、もし子どもでも生まれるとその子どもも「無国籍」になってしまいます。ただ、無国籍であっても子どもが生まれて1ヶ月以内に役所に届け出れば、その子どもには定住権はもらえます。しかし、日本国籍の子どもであれば年齢になれば役所から通知が来て入学できる小学校も、無国籍の子どもにはその通知が来ないことがあります。

また、国籍と同じような大きな問題に「難民認定」の難しさがあります。これは「難民」として日本に来た人は、「認定難民」としての身分を得られるはずなのですが、ほとんどの難民は「定住者」の在留資格で暮しています。なぜかと言うと、日本政府の難民認定は非常に厳しくて、「難民」として日本にやってきた事実があっても、「難民」の証明～祖国から迫害を受けている（受ける可能性が高い）などの事実の証明、例えば私の場合は、ベトナムの警察が私を刑務所から脱出したから追っていることを証明する書類になります～がないと認定してくれません。難民の家族は、全員が揃って同時に国を脱出できないことが多く、世界各地にバラバラに暮していることが多いのですが、例えば、お兄さんがフランスにいて、本人が日本にいるというようなことが結構あります。そのような場合、難民認定されていれば難民旅行証明書という難民用旅券がもらえて、相手国のビザも普通にとれ、お兄さんに会いにフランスに行けます。しかし、「定住者」の資格ではビザを申請しても相手国がなかなか認めてくれません。私自身の経験でも、最近まで「定住者」の資格で暮らしていたのですが、2年前に長女がアメリカに留学をしようとしたとき、「定住者」の資格では留学できない事がわかり苦労しました。他にも難民が日本で暮らすことの難しさはたくさんありますが、大きな問題は、『言葉』『国籍』『難民認定』だと思います。私がボランティアで関わっている「**かながわベトナム親善協会**」や難民の定住生活の支援をさせていただいている「**神奈川県インドシナ難民定住援助協会**」でも、『言葉』『国籍』『難民認定』に関わる相談事が多いです。

## 南ベトナムにとってのベトナム戦争

私は、自分が「難民」であったことも、「ベトナム人」であることについても誇りに思っています。しかし、残念ながら今のベトナムには帰りたくないし、帰れないと思います。ベトナム戦争については、ベトナムとアメリカの戦争という見方をする人が多いですが、当時の南ベトナムの人ほとんどが、北ベトナムの共産圏拡大に対する自衛のための戦争だと思っています。戦争の結果として国を脱出し「難民」になったのは自分の意思であり、これは恥ずかしい事でも隠すことでもないことだと思います。

## ベトナム系日本人

2年前の長女が留学の時の問題がきっかけで私は、日本の国籍を取りました。

その時、自分の気持ちとして自分は何なのかということ深く考えました。

私の気持ちとしては「ベトナム系日本人」としての誇りを持っています。これは、日本人として普通の日本人と同じようにきちんと義務と責任を果たすし日本の文化も受け入れる、だけど考え方や文化的な部分はベトナム人で、ベトナムはやはり自分の故郷である、ということです。私が日本国籍を取っ

た時につけた苗字は、実は私が日本に初めて上陸した港の名前なのです。

私がベトナム系日本人として生きていくことを決意する意味でふさわしいと思っています。

ヒエンさんの長女のカンさんは現在、大学3年生で法律を勉強しています。日本に来た時はまだ1歳半でした。カンさんに「自分のアイデンティティーは何か」を伺いました。

## ベトナムを知らないベトナム人



長女のカンさん

1歳半の時にベトナムを出て以来、一度も行ったことはないのですが、ベトナムの事は何も覚えていません。実際のベトナムの風土や文化はわからないのですが、私も父と同じように自分は「ベトナム系日本人」だという意識です。

家の外の日常生活では、例えば学校で勉強したり友達と話したりしているときは日本人の感覚で考えていると思います。ただ、自分は日本人かベトナム人のどちらの要素が強いのかと聞かれたら、ベトナム人の方だと答えます。家の中では父と母は、私が日本人として

生きていても、ベトナム文化を忘れないためにとずっとベトナム語を使って過ごしてきました。2人の妹も同じように家の中ではベトナム語です。書くのは苦手ですが、話し言葉は、専門用語以外はほとんどわかります。ですから、ベトナム人のメンタリティーで考える父や母の話はよく理解できます。家族や兄弟姉妹が仲良くすることを大切に考える父や母の思いは、ベトナム人の伝統的な考え方だと思うし、私も大事なことだと思っています。

ベトナムは、両親の母国であり私の母国でもあるわけですからもちろん行きたいけど、今の政治体制のままでは行きたくないです。だけど両親と一緒にいつか一度は行きたいと思っています。

### 4 かながわベトナム親善協会

1994年発足。ベトナム人自身がボランティアでベトナム人のために活動する団体で県内だけでも1,900人も会員がいます。主な活動は、会員への相談活動やニュースレターの発行（隔月）、日本人との交流会の開催などです。ベトナム語のニュースレターには日本での生活に必要な法律の解説やベトナム国内のニュースなどを載せています。

連絡先：ダン・タン・ファットさん（副代表）  
自宅FAX：0467-76-6422

### 5 特定非営利活動法人神奈川県インドシナ難民定住援助協会

1986年よりインドシナ（ベトナム・ラオス・カンボジア）からの難民を対象に日本語教室を開催したり、日常的に生活相談・法律相談に応じたりと難民の様々な相談事の解決を支援しています。今年の4月に特定非営利活動法人の認証を得ました。

TEL&FAX：046-268-2655

## NGO研修派遣参加者募集

国際交流・国際協力などの分野でNGOの果たす役割が重要になっていくなかで、NGOの組織運営＝マネージメントに関心が高まっています。

NGO研修派遣事業は、これからのNGO活動を担う若手スタッフを、NGO先進地域であり神奈川県友好交流先でもあるアメリカ合衆国・メリーランド州及びワシントンDCのNGOに派遣し、NGOマネージメントを研修するものです。

**研修内容：**派遣先のNGOでインターンとして、NGOの組織マネージメント（資金調達方法、人材育成等）やNGOの活動手法（広報、ボランティアの活用等）などの研修を行います。ただし、賃金は支払われません。

**期間・人数等：**派遣期間は原則として、2か月以上3か月以内です。派遣時期は原則として、平成13年10月1日から12月30日の間とし派遣人数は1名とします。

### 応募資格

- (1) 海外で生活し研修する適応能力があること。
- (2) 神奈川県内において在住、在学又は在勤し、県内でNGO活動を行っていること。
- (3) 平成13年4月1日現在において年齢が20歳以上39歳以下であること。
- (4) 研修に必要な語学力を有すること。
- (5) 神奈川県と派遣先地域との交流促進に意欲があること。
- (6) 帰国後県内においてNGO活動やその支援等に積極的に参加できること。

**支援内容：**40万円を限度として、次の項目の2分の1に経費助成を行います。

研修派遣先への1回の往復渡航費

別に定める基準で積算した、現地生活費

別に定める基準で積算した、研修に必要な経費

研修派遣中の保険料（海外傷害保険等）

上記助成額を超える部分の所要経費は研修者の自己負担となります。

**申込方法：**所定の申込書類を郵送してください。

**申込用紙請求と提出先：**神奈川県国際交流協会・民際協力課

**申込期間：**7月1日(日)～7月31日(火) 7月30日(月)消印有効

**選考：**書類選考の後、面接を行い選考します。

**面接日：**8月11日(土)

**決定：**8月中旬

問い合わせ先 民際協力課 TEL：045-896-2626 E-mail：minsai@k-i-a.or.jp

## ピースメッセンジャーかながわ in U.S.A.

テーマは「今、ボランティアを考える」

参加者募集!

今年が国連「ボランティア国際年」。また神奈川県が、アメリカ・メリーランド州と友好姉妹州提携を結んでから20周年という記念の年でもあります。

今回は、「ボランティア」をテーマに、アメリカ・メリーランド州とワシントンDCを訪れます。

「ボランティアをしてみたいんだけどどこから始めればいいのか?」「ボランティアって何となくカッコいいからしてみたい」「人の役に立つようなことを自分のあいた時間にしたい」……また一方で、「ボランティアをコーディネートするって難しい」、「ボランティアさんそれぞれが関心を持っていることを活かせる活動を紹介できているか」などなどボランティアをする側、ボランティアを受け入れる側の方々が「ボランティア」にまつわるギモン、クエスチョンをお持ちなのではないでしょうか。

そんなギモンに少しでもヒントになるような体験、経験が得られれば、と考え、ボランティアスピリット旺盛なアメリカを訪問し、ボランティアコーディネートを行うNGOに協力をいただき、実際にボランティア活動を体験していただくツアーを企画しています。

参加をご希望の方は、当協会までお問い合わせください。

**時期** 2001年10月23日(火)～30日(火) 8日間

**参加費** 20万円程度

**対象** 事前研修に参加でき、今回のツアーの目的に賛同する高校生以上の男女 約15名

**訪問先(予定)** アメリカメリーランド州、ワシントンDCでボランティアコーディネートを行っているNGO(グレート-D C ケアーズ、国際眼球基金など)、現地でのボランティア活動に参加、ボランティア活動に関わっている家庭でのホームステイなど

**説明会** 8月11日(土) 18日(土) 10:00～12:00

**事前研修** 9月29日(土) 10月13日(土) 13:30～17:00

\*説明会・事前研修はいずれもアーカイブ3階・研修室Aで実施します。

## 外国籍住民の実態調査報告書ができます

### 地域への参加 日本語能力と比例

### ニューカマー 大半が現業職従事

県内の外国籍住民生活の実態を調査

アンケートインタビュー

県・市町村の研究会

教育 高い学費・いじめ…悩み多く

年金 保険 低い加入率 情報も不十分

(5月16日(水)朝日新聞)

2000年度(アンケート調査)から2001年度(インタビュー調査)にかけて「かながわ自治体の国際政策研究会」(県と県内全市町村国際政策担当課で構成)がおこなった「神奈川県外国籍住民生

活実態調査」の報告書ができあがります(8月上旬予定)。この調査は、1984年におこなった実態調査に次ぐもので、協会が県からの委託を受けて実施しました。アンケート調査は1000件を超える回答を得、またヒアリング調査では100人を超える外国籍住民の方々の「声」に出会うことになりました。この報告書はアンケート調査とインタビュー調査の結果を併せて掲載したものです。

報告書は2部立てになっており、第1部のアンケート調査の報告に関しては、「雇用環境」、「地域社会とネットワーク」、「居住環境」、「子どもの教育」、「通名使用」、「病気や怪我の際の対応」、「公共機関の利用や行政サービス」など、テーマごとの分析が詳細におこなわれています。一方、第2部は、おもにエスニックグループごとの章立てを基本に構成されていますが、「ニューカマーの若者」という切り口を盛り込んだ章立てをはじめ、これまで行政の調査で手がけられることがまれだった「オーバーステイ」の人々や、外国人女性に対する暴力と彼女たちの「生きにくさ」を独立の章立てで扱うなど、新しい試みがなされています。

一連の調査は、もとより行政施策への反映を企図しておこなわれたものですが、ぜひ、多くの方々にひろく、「多文化共生かながわ」の「いま」についての理解を深めていただくために手にとっていただければと考えます。

「報告書」に関する問い合わせは以下の部署まで。

かながわ自治体の国際政策研究会事務局(神奈川県国際課企画班)  
TEL：045-210-3748(直通)

## 国際交流・国際協力のための ポスター・作文コンテスト作品募集

地球規模の課題や国際連合に対する関心を高め、国際理解・国際協力の必要性をアピールするためのコンテストです。

「国連の役割」「平和」「安全」「人権」「環境」「国際理解」「国際協力」などについて、ポスターや作文に表現してみませんか。

### 応募資格および規格

#### \* ポスター \*

小学生（4つ切） 約39×54cm  
中学生（4つ切） 約39×54cm  
高校生（半さい） 約54×78cm  
一般（半さい） 約54×78cm

#### \* 作文 \*

中学生のみ  
（B4縦書400字（20×20）詰原稿用紙3枚以内）

締切り 9月8日（土）必着

\* ポスターは裏面に、作文は原稿に、それぞれ、氏名（フリガナ）・年齢・住所・学校名・学年を記入の上、応募してください。

\* 応募の詳細については、管理・国連課へお問い合わせください。  
TEL：045-896-2626  
E-mail：kanri@k-i-a.or.jp

## 神奈川国際学生会館 交流事業のご案内

留学生と楽しいひとときを過ごしませんか!!

### 白根ガーデンパーティー

夏の宵を、緑鮮やかな芝生の庭で留学生たちとバーベキューやエスニック料理を食べ、ゲームや花火をしながら過ごす、楽しい交流パーティーです。

と き 7月22日（日）18:00～21:00  
雨天決行予定

ところ 国際学生会館・白根  
（下図参照）

横浜市旭区白根4-24-3  
相鉄線鶴ヶ峰駅徒歩15分

内容 野外バーベキュー、留学生によるエスニック料理、花火、ゲーム

参加 当日会場にて受付  
参加費 1,000円

### ふちのべ銀河まつり・模擬店

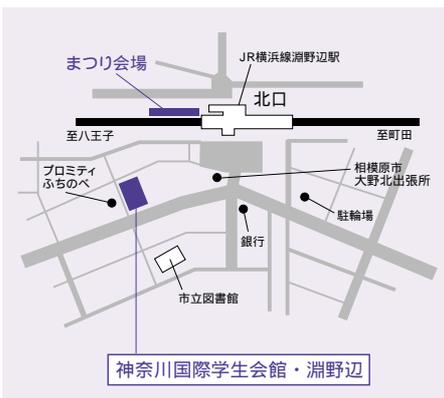
地域の夏祭りで、国際学生会館の留学生が大勢参加しエスニック料理を作り、販売します。学生たちの元気溢れるテントを訪ねて、手作りのエスニック料理を食べながら留学生と交流しませんか。

と き 7月28日（土）、29日（日）  
12:00～20:00 雨天決行予定

ところ 淵野辺駅北口駐輪場（下図参照）  
（JR横浜線淵野辺駅）  
北口広場左側

### 問い合わせ先

（ガーデンパーティー、模擬店ともに）  
神奈川国際学生会館・淵野辺 事務室  
TEL：042-768-0211



## 神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切に「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

### あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

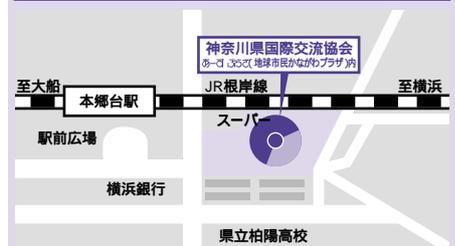
年会費：個人 3,000円から  
団体 10,000円から

\* 会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営するあーだーぶろ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00～20:00  
（土曜・日曜・祝日 9:00～17:00）  
映像ライブラリー 9:00～17:00

\* 月曜日は休館日です。  
（ただし、祝日は開館しています。）



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、  
（財）神奈川県国際交流協会  
045-896-2626 までどうぞ。

### お詫びと訂正

3月号1面「王さんの『これが私の典型的な一日』の過ごし方」の中で使用されている写真の説明で、「日中友好協会の中国語教室」は、「中国留学生援護会の中国語教室」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

# Hello friends

2001年7月10日発行  
第221号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会  
〒247-0007  
横浜市栄区小菅ケ谷一丁目2番1号  
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階  
045-896-2626 FAX.045-896-2945  
URL: http://www.k-i-a.or.jp  
E-mail: hello@k-i-a.or.jp  
印刷 株式会社 佐藤印刷所

## キヤラバン・サライ

歯医者に行つた。その時、歯や歯茎の特長から、右利きである自分の歯磨きの癖を指摘された。自分が右利きの人特有の磨き方をしていること知り、苦笑した。長年の間私は、決まった位置で歯ブラシを持ち替え続け、特定の歯を上手に磨けていたが、小さな虫歯も発見された！

その時思った。歯磨きに癖があるように、言葉の使い方、物事の考え方も自分で気づいていない悪い癖があるのではないだろうか、いつとも上手に磨けなくて虫歯のようになってしまった感情があるのではないだろうか。

私たちが身近な人が話す言葉を記憶していくことにより言語を習得していく。言語の継承は、単なるコミュニケーションツールの継承というだけでなく、文化や習慣の継承でもある。言語を習得する過程で、悪習を身につけてしまつこともあろう。私たちの会話の中に、押さえきれない好奇心、習慣や悪意から不用意に尋ねてしまう典型的な質問がいくかに多いことか。他者の気持ちや推し量ることができず、ひとつの言葉で人を傷つけ、傷つけられることが日常になっていやしなやか。

色々な文化や歴史的背景、異なる言語を持つ人々と対話することは、私たちの考え方や感情を相対化し、人間の根源にかかわる感情をもう一度見つめ直す一番の方法だ。いま、ここで、それができると思う。

あれ以来、歯磨きの悪い癖は直すよう努力しているけれど、ふと気づけば、以前と同じ磨き方、口の回りに泡をつけながら、「がんばる」なんて思うこの頃。（企画情報課 藤分 治紀）

\*キヤラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿。文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は9月上旬の予定です。（Hello Friendsは奇数月に発行しています。）